

皮膚心身症患者のグループ療法の効果について —M-GTA法を用いた質的研究—

渡邊郁子*1 檜垣祐子*2 横田 仁子*3
加茂登志子*2 氏家由里*4

*1取手こころのクリニック

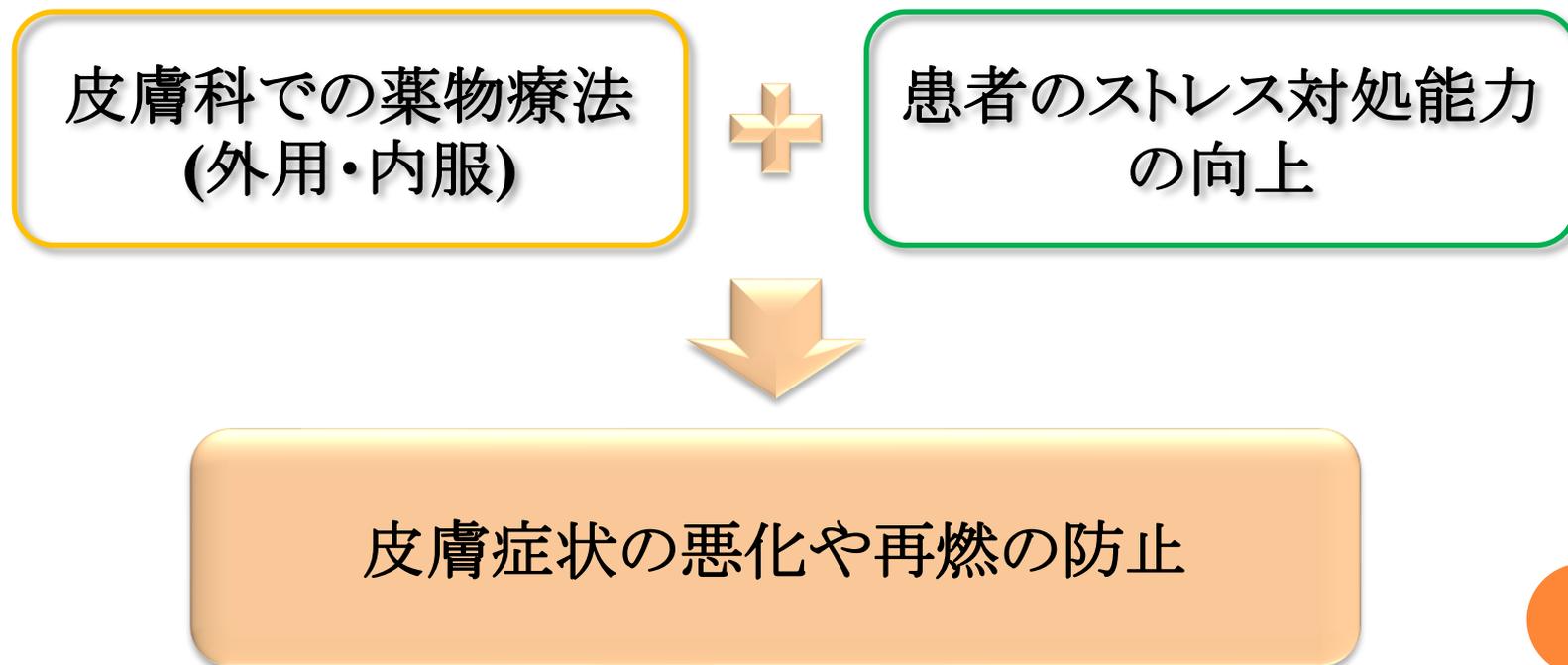
*2若松町こころとひふのクリニック

*3東京女子医科大学保健管理センター

*4東京都心身障害者福祉センター

研究の背景

皮膚心身症に対しては、皮膚科的薬物療法に加え、その発症や経過に關与するストレスへの患者の対処能力の向上を図ることが、皮膚症状の悪化や再燃の防止に役立つと想定される。



先行研究

ストレス対処能力向上を目的としたグループ療法

演者らはグループ療法参加者116名の自由記述アンケートを分析した。その結果、グループ形式で具体的ストレス場面やその対処法を提示することで、患者の安心感やストレスへの気づき、動機づけが促進されることが明らかになった(渡邊ら.上智大学心理学年報;37:7-15,2012)。

また、量的検討としてグループ療法に参加した実験群(10名)、不参加の統制群(12名)に、各種アンケートを用いて群間比較を実施したところ、グループ療法に参加することで、問題に主体的に取り組もうという患者の意欲が向上する傾向が示された(渡邊ら.心身医学;56:1032-1042,2016)。



これらの結果から、「問題対処への意欲の向上」は、患者のストレス対処法習得の重要なステップであり、この点にグループ療法がどのように影響を及ぼしているかを詳細に知るためには、質的研究が必要であると考えた。

本研究の目的および対象と方法

目的

患者の問題の認識や問題への対処、症状の経過や治療に対する姿勢にグループ療法が与える影響を質的に検討する。

対象

過去1年に2回以上グループ療法に参加した皮膚心身症患者

方法

- 以下のリサーチクエスチョンに沿って、半構造化面接を実施
「グループ体験がどのようなものであったか」
「日常生活に影響があったか」
- ICレコーダーに録音した患者の発言を文章化し、M-GTA法 (木下、2003)を用いて、**概念**及び概念を包括する**カテゴリ**を生成し、**モデル**を作成する。

結果-1

参加者の背景

女性患者 7名、年齢29～56歳

皮膚科診断のうちわけ

アトピー性皮膚炎 3名、蕁麻疹、痒疹、貨幣性湿疹、
多発性円形脱毛症 各1名



結果-2

M-GTA法による分析

	カテゴリー	概念
グループ療法に関わるもの	他患者の観察や交流による影響	多様性への気づき 自分だけではないという支え 自己理解 不安・緊張
	知識の習得・対処法の体験による効果	ストレス対処法の理解 自己の客観視
	問題への態度	ストレスのとらえ方の変化 対処法の再認識・実践 対処法がある心強さ 実施の難しさ・課題の認識 モチベーションの低下
皮膚科診療に関わるもの	治療やストレスに関する心理教育による効果	皮膚症状への対処法・見通しの理解 皮膚症状とストレスの関係理解 皮膚症状の改善
	皮膚症状への態度	皮膚症状のとらえ方の変化 治療意欲

16個の概念から5個のカテゴリーが生成された。カテゴリーは、大きくグループ療法に関わるものと、皮膚科診療に関わるものに分けられた。結果-3にモデルを示す。

結果-3

グループ療法及び皮膚科診療の効果についてのモデル

皮膚科診察

グループ療法

《治療やストレスに関する心理教育による効果》

- <皮膚症状への対処法・見通しの理解>
- <皮膚症状とストレスの関係理解>
- <皮膚症状の改善>

《他患者の観察や交流による影響》

- <多様性への気づき>
- <自分だけではないという支え>
- <自己理解>
- <不安・緊張>

《知識の習得・対処法の体験による効果》

- <ストレス対処法の理解>
- <自己の客観視>

《皮膚症状への態度》

- <皮膚症状のとらえ方の変化>
- <治療意欲>

《問題への態度》

- <ストレスのとらえ方の変化>
- <対処法の再認識・実践>
- <対処法がある心強さ>
- <実施の難しさ・課題の認識>
- <モチベーションの低下>

《 》はカテゴリー、< >は肯定的概念、<>は否定的概念、矢印は影響の方向性を示す。

考察-1

グループ療法、皮膚科診療各々の効果について

- モデルに示すように、グループ療法、皮膚科診療各々の効果が見出された。
- グループ療法では、他者と交流しつつ、ストレス対処法を学び、体験することにより、ストレスのとらえ方や行動の変化が促されること、対処法を知っているという心強さが患者の支えになることが明らかとなった。一方で、対処法の実践が難しく、自分の課題が再認識されたり、モチベーションを保ちにくい患者も存在した。
- 皮膚科診療では、ストレスと症状の関係や治療経過についての情報提供により、患者の皮膚症状のとらえ方が変化し、治療意欲が高まることが示された。



考察-2

グループ療法と皮膚科診療の相互作用について

- モデルから、グループ療法と皮膚科診療の効果は相互に影響しあい、患者の問題への態度、皮膚症状への態度に作用するプロセスが明らかになった。
- 皮膚科診療と並行してグループ療法に参加することで、患者は自身の問題や皮膚症状に対して、「仕方ない」ものから「自分で対処可能」なものにとらえるようになり、主体的に問題に取り組もうという意欲や治療意欲、症状改善につながることを示された。



まとめ

- 皮膚心身症患者の問題の認識や対処、症状の経過や治療に対する姿勢にグループ療法が与える影響を質的に検証した。
- 7名の患者に半構造化面接を行い、その発言をM-GTA法により分析したところ、5個のカテゴリーが生成され、グループ療法に関するもの3個と皮膚科診療に関するもの2個に分けられた。この結果から、モデルを作成した。
- モデルから、グループ療法と皮膚科診療は相互に影響しあい、問題や皮膚症状への患者の態度に作用し、問題に主体的に取り組もうという意欲や治療意欲、症状改善に効果を示すことが明らかになった。

